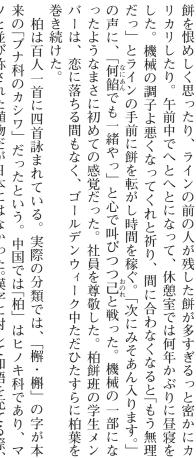
餅を恨めしく思ったり、ラインの前の人が残した餅が多すぎるっと密かにカ した。機械の調子よ悪くなってくれと祈り、間に合わなくなると「もう無理 ピードアップして、ラインも二列になる。巻いても巻いても次々流れてくる 体力もあるから軽い軽い・・・と思っていたのは初めだけ。慣れてくるとス またベルトコンベヤーに戻す。学生時代に大きなパン工場でした短期のアル リカリしたり。午前中でへとへとになって、休憩室では何年かぶりに昼寝を バイトだ。一日中白い餅に葉を巻くという簡単な仕事。手先も器用な方だし、 第72回 探求・川にちなんだ万葉集の歌 ベルトコンベヤーで流されてくる餅を右手で取り、左手で柏の葉を巻いて、 秋柏 物に寄せて思を陳べたる歌 潤和川辺の 他人にはしのべ 小竹の目の こころ 横浜市立矢向小学校教諭 澤井園子 君にあへなく (巻第十 二四七八番歌



松柏は長命の象徴で非常にめでたい葉ということで、日本古来の神事に用い ツと並び称された植物だが日本にはなかった。漢字に対して和語を充てる際、 柏は百人一首に四首詠まれている。実際の分類では、「檞・槲」の字が本



静岡県富士市を流れる潤井川

る小竹で編んだ籠の目の細かさゆえに、他の方なら隠すこともできましたが、術品だった。「柏葉が霧に濡れて潤っている潤和川の川辺、そこに生えてい まで遠い寒さだったが川岸の梅は温かく迎えてくれた。潤和川辺と言えば在は不明だが、静岡県富士市を流れる潤井川かと本にあり、訪ねてきた。春 らしさを思いつつ、潤井川を後にした。 る小竹は、職人の手を経て美しい道具・生活に無くてはならない物となり、 を意味する。シノが語源の「しなやか」という言葉もある。山や川辺に生え の細かな編み目から朝の光が差し込んでくることから、シノノメは「夜明け」 隠しきれない。古代は住居の出入り口にシノで編んだ簾を垂らしていて、そ あなた様には堪えられません。」恋しい想いが光のように水のようにあふれて く並んで組まれている。いわゆる道具なのだが、それは人の手が作り出す芸 を打ち込むのに用いる機織の心臓部で、見事な等間隔で竹が櫛のように細か ういえば先日、竹製の筬という機織の道具を見せていただく機会を得た。緯糸 態という説がある。一方、この歌は「しの小竹」に寄せて詠まれている。所 などが理由のようだ。「秋柏」とは紅葉という説と熟実をたわわにつけた状 盤の皿の上に神饌を乗せる」「山火事や噴火の後に真っ先に生える生命力」 言葉が生まれ、時代を経てもなお人々の心を魅了する。改めて人の手の素晴 られる「ブナ科のカシワ」にしたらしい。「柏葉を束ねて竹のひごで結んだ葉 「小竹」。シノは網戸、 *** (垣根)などの用材として使われ、篠笛もある。そ

という訳が分からない自信とやりがいが見えた頃に、終わりの日が来た。「次 つぶやいた。 んなさい、オシャレにやれる自信がありません・・・と笑顔の下、心の中で はクリスマスケーキの頃にまた来て。今度はちょっとおしゃれだよ。」ごめ 工場で情けないスタートを切った自分でもなんとか慣れ、柏葉なら任せて